

産業交通水道委員会要求資料

令和 8 年 3 月
交 通 局

- ・ 市バスにおける定期外運賃の収入額内訳…P 1～2
- ・ オーバーツーリズムに関する費用（「令和 8 年度 市バス・地下鉄事業予算概要」抜粋）…P 3～9

市バスにおける定期外運賃の収入額内訳

(単位：百万円、税込)

| 区分 | 運送収入 | |
|-----------|--------|--------|
| | 令和6年度 | 令和5年度 |
| 普通券（現金等） | 2,479 | 2,519 |
| ICカード | 10,696 | 9,041 |
| 回数券 | 1,013 | 1,038 |
| バス一日券 | △39 | 478 |
| 地下鉄・バス一日券 | 717 | 570 |
| 定期外 合計 | 14,866 | 13,646 |

4 市バス・地下鉄の財政状況

【市バス】

| 区 分 | | R8年度予算(A) | | R7年度予算(B) | | 差引増▲減(A-B) | |
|-----------|-----------------|-----------|-----|-----------|-----|------------|-----|
| | | 億 | 百万円 | 億 | 百万円 | 億 | 百万円 |
| 収益的 収支 | 営 業 収 益 | 248 | 50 | 237 | 47 | 11 | 03 |
| | うち運 送 収 益 | 238 | 63 | 227 | 71 | 10 | 92 |
| | 営 業 外 収 益 | 15 | 87 | 13 | 26 | 2 | 61 |
| | うち一般会計補助金 | 8 | 57 | 7 | 31 | 1 | 26 |
| | 収 入 計 | 264 | 37 | 250 | 73 | 13 | 64 |
| | 営 業 費 用 | 261 | 81 | 247 | 66 | 14 | 15 |
| | うち人 件 費 | 111 | 83 | 104 | 66 | 7 | 17 |
| | うち経費(燃料費・修繕費等) | 128 | 92 | 123 | 59 | 5 | 33 |
| | うち減価償却費等 | 21 | 06 | 19 | 41 | 1 | 65 |
| | 営 業 外 費 用 | 9 | 13 | 8 | 28 | | 85 |
| | 支 出 計 | 270 | 94 | 255 | 94 | 15 | 00 |
| | 経 常 損 益 | ▲ 8 | 73 | ▲ 7 | 95 | ▲ | 78 |
| | 純 損 益 | ▲ 8 | 73 | ▲ 7 | 95 | ▲ | 78 |
| | ▲ 累 積 欠 損 金 | ▲ 9 | 89 | ▲ 15 | 73 | 5 | 84 |
| 資本的 収支 | 収 入 | 26 | 24 | 31 | 07 | ▲ 4 | 83 |
| | うち企 業 債 | 20 | 08 | 25 | 04 | ▲ 4 | 96 |
| | うち補 助 金 | 4 | 48 | 5 | 56 | ▲ 1 | 08 |
| | 支 出 | 48 | 96 | 52 | 27 | ▲ 3 | 31 |
| | うち建 設 改 良 費 | 25 | 48 | 30 | 62 | ▲ 5 | 14 |
| | うち企 業 債 償 還 金 | 22 | 98 | 21 | 15 | 1 | 83 |
| | 差 引 | ▲ 22 | 72 | ▲ 21 | 20 | ▲ 1 | 52 |
| | 資 金 剰 余 | 24 | 95 | 18 | 20 | 6 | 75 |
| | 年 度 末 企 業 債 残 高 | 89 | 01 | 94 | 83 | ▲ 5 | 82 |

※経常損益、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しない。

2 重要課題への対応

困って網掛けしているものが
オーバーツーリズム対策

1 市民生活と観光の調和・両立 ～市バス

市バスの一部路線・時間帯で生じる混雑への対策を積極的に展開し、本市の観光課題対策に取り組みます。

(1) 市バス等の市民優先価格の実現 (◎)

全国初のパイロットプロジェクトとなる市バス等の市民優先価格について、観光が市民生活の豊かさに繋がることを市民に実感していただくことで、市民と観光客が共存する機運の醸成に繋げ、市民生活と観光の調和を目指します。令和9年度中の実現に向け、市民周知、識別システムの構築や運賃箱等の機器改修に着手します。(R8～9年度 925,065千円)

(2) 市バスの混雑対策

ア 限りある市バス輸送力の効果的・効率的な配分等 (◎)

① 均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手

(181,104千円)

② 市バスのリアルタイム運行情報の発信強化

- ・令和7年度の交通局ホームページでの発信（市バスの車内混雑度や走行位置）に加え、令和10年度にはバスの到着予定時刻等を経路検索事業者が地図アプリ等で発信（オープンデータ化）できるようにシステム改修に着手（R8～10年度 798,970千円）
- ・バスロケーションシステムの機能拡充（車内混雑度やバス到着予定時刻の発信）に向けアナログ方式からデジタル方式への切り替えを実施（100か所 154,000千円）



- ③ **デジタル乗車券・クレジットカードによるタッチ決済の導入推進**
スマートフォンで企画乗車券の利用が可能となるデジタル乗車券とクレジットカードによるタッチ決済の導入
(R 7～9年度 1,755,582 千円)
- ④ **旅客流動調査及びお客様アンケート調査の実施等**
 - ・観光利用の回復がみられる一方、全国的に深刻な担い手不足などがあり、さらに市民優先価格の導入を令和9年度に控えるなど、市バス事業をとりまく環境が大きく変化する中、限りある輸送力をより一層効果的かつ効率的に配分していくため、御利用状況を詳細に把握する調査を実施 (241,000 千円)
 - ・路線、ダイヤのあり方を検討していくため、乗降人員や遅延状況等の客観的なデータ分析を行うための基盤を整備 (27,500 千円)

イ 地下鉄をはじめとした鉄道を活かした移動経路の分散 (◎)

- ① **京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”の活動拡充**
語学が堪能な学生スタッフ等により、市バスの分散乗車をはじめ、地下鉄への利用誘導、大型手荷物の車内持ち込みの抑制に向けた手ぶら観光の推奨等を実施。なお、お客様の増加に対応し「金閣寺道」をはじめ観光地最寄りのバス停での活動を充実 (62,633 千円)
- ② **京都駅前バスのりばや主要観光地周辺のバス停における整列、誘導を行う案内活動の実施** (102,304 千円)
- ③ **観光シーズンにおける京都駅に向かうバスから地下鉄への無料振替** (5,440 千円)
- ④ **「地下鉄・バス1日券」の販売をはじめとする鉄道への利用誘導**
 - ・WEB媒体を活用した「旅マエ」でのPR (11,000 千円)
 - ・航空機内、空港、鉄道駅、関西空港リムジンバス車内、宿泊施設等における「旅ナカ」でのPR (23,507 千円)
 - ・周辺部への誘客キャンペーンの実施(10,000 千円)
 - ・観光シーズンにおけるJR東海京都駅での「地下鉄・バス1日券」の臨時販売

ウ **観光特急バスの利用促進** (◎)

- ① 効果検証結果を踏まえた運行パターン・ダイヤの見直し
 - ・EX100号系統とEX101号系統の運行パターンの見直し
 - ・お帰りの時間帯におけるEX100号系統について、午後の清水道(始発)便を祇園(始発)便に変更(令和8年3月実施)
- ② WEB媒体を活用した「旅マエ」でのPR (11,000 千円) ※再掲
- ③ 航空機内、空港、鉄道駅、関西空港リムジンバス車内、宿泊施設等における「旅ナカ」でのPR (23,507 千円) ※再掲

2 将来を見据えた経営戦略の推進

事業運営を支える担い手確保に向けた処遇改善や採用活動に積極的に取り組むことをはじめ、周辺部への誘客など1人でも多くのお客様に御利用いただくための利用促進策、駅ナカビジネスや広告等による収入増加策、交通DXの推進を図ります。また、これらを取り入れた従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を策定します。

(1) 担い手の確保・育成等

ア 更なる処遇改善や職場環境の改善等 (◎)

- ① 公休日数の増加や勤務間インターバルの改善
- ② 市バス営業所や地下鉄保守事務所等における女性用施設の整備、仮眠室・休憩室の改修等 (113,965 千円)

イ 採用に係るPRや受験機会の拡大 (◎)

- ① 働きやすい職場認証制度の二つ星取得 (160 千円)
- ② 求人イベントへの出展や市バス運転体験会の開催等 (2,930 千円)
- ③ 大型二種免許取得費用の助成 (30,879 千円)



「働きやすい職場」
認証マーク

ウ 職員のスキルアップやモチベーションアップの取組

- ① 「運転技能・接遇コンテスト」の開催 (500 千円)
- ② 資格取得支援制度によるスキルアップの奨励 (300 千円)

(2) 明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”の取組

ア 利用促進・収入増加策

- ① 1人でも多くのお客様に御利用いただくための取組
 - ・地下鉄・バス「MOTTO!」利用促進本部による全庁体制での「市バスの赤字系統の利用促進」及び「地下鉄とバスを組み合わせた移動への誘導」に向けた取組の推進
 - ・周辺部への誘客キャンペーンの実施 (10,000 千円) ※再掲
 - ・民間事業者・大学等との連携による利用促進
- ② 駅ナカビジネスの増収策 (◎)
 - ・四条駅における大規模リニューアルに向けた基本構想の策定 (R8～9年度 45,760 千円)
 - ・小規模スペースを有効活用した自動販売機の増設やイベントスペースの利用促進等 (7,260 千円)
- ③ 広告料収入をはじめとしたあらゆる増収策の実施
 - ・デジタルサイネージ等のクライアントニーズの高い広告媒体の増設や広告代理店と連携した販売促進
 - ・まぢピンチキャラクターのLINEスタンプの販売等
 - ・ふるさと納税制度による寄付や交通局の返礼品での資金調達

イ 経費削減策

- ① 市バス車両のリース方式での調達による企業債償還負担の軽減
- ② 地下鉄駅の有人改札業務のリモート化の拡大
(北山、鞍馬口、丸太町、五条、十条、くいな橋)
- ③ 改集札機のＩＣ専用機導入等による保守管理費用の削減等
- ④ 設備更新による電力使用量の削減
 - ・エレベーターの更新（丸太町、二条城前）
 - ・駅舎等における照明のＬＥＤ化（六地藏、石田ほか）

ウ 経営状況の見える化

- ① SNS等でのまちピンチキャラクターを活用した経営状況の発信
- ② 広告の空き枠（市バス車両の外側看板や地下鉄駅の電照広告）を活用した経営状況等の発信

エ 国の支援制度の活用や国・府への要望活動の実施

- ① 担い手確保や物価高騰、交通DX・GX（グリーントランスフォーメーション）に対する支援拡充
- ② 地下鉄事業における可動式ホーム柵等のバリアフリー対策や駅出入口等の浸水対策に係る国庫補助制度の継続・拡充等

(3) 交通DXの推進

ア 限りある市バス輸送力の効果的・効率的な配分等

- ① **路線・ダイヤ編成に向けたデータ分析基盤の整備**（27,500千円）※再掲
- ② 都市計画局と連携した自動運転（レベル4）による市バス等への自動運転バスの導入に向けた取組の推進

イ 生成AIサービス等のデジタルツールの導入

- ① 更なる事務効率化の推進（16,374千円）
幅広い情報収集や新しい事業アイデアの創出等に活用できる生成AIサービスや、システム構築に関する専門知識が無い職員でも業務アプリ等を開発できるデジタルツールの活用
- ② 地下鉄トンネル等検査業務のDX化
 - ・車両前方に高精細カメラやセンサーを設置することでトンネル等の状態をAIにより自動解析する仕組みの構築に向けた試験運用を実施（R8～9年度11,000千円）
 - ・軌道保守管理システムを導入し、効率的にレールを管理、整備していくために、軌道や車両のデータベース構築に必要な測定や調査を実施（17,314千円）

(4) 次期経営計画の策定

この間のお客様数の動向や運営コストの高騰等の大きな経営環境の変化を踏まえ、交通DXの推進を図るなど幅広い分野について、従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を前倒しで策定（2,834千円）

重点3 利便性・快適性の向上

お客様により便利で快適に御利用いただくことを目指して、御利用環境の整備やサービス向上の取組を進めていきます。

1 市バス

(1) 利便性・快適性の向上策

ア **均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手** ※再掲

(181,104 千円)

イ **市バスのリアルタイム運行情報の発信強化** ※再掲

- ① 令和7年度の交通局ホームページでの発信（市バスの車内混雑度や走行位置）に加え、令和10年度にはバスの到着予定時刻等を経路検索事業者が地図アプリ等で発信（オープンデータ化）できるようシステム改修に着手（R8～10年度798,970千円）
- ② バスロケーションシステムの機能拡充（車内混雑度やバス到着予定時刻の発信）に向けアナログ方式からデジタル方式への切り替えを実施（100か所154,000千円）

ウ **バス待ち環境向上**

- ① バス停上屋の新設及び老朽化した上屋の更新（33,977千円）
- ② バス停標識柱の更新等による照明のLED化（21,960千円）
- ③ ベンチの新設・更新（2,963千円）
- ④ 夏期におけるドライ型ミスト装置の稼働（8,713千円）



バス停上屋

2 地下鉄

(1) 利便性・快適性の向上策

ア **エレベーター（EV）の増設**

- ① 四条駅の阪急連絡通路へのEV新設（67,650千円）(◎)
- ② 地下鉄駅へのEV増設に向けた検討の着手（45,000千円）(◎)



四条駅の阪急連絡通路へのエレベーターの設置イメージ

イ 地下鉄駅券売機での定期券発売機能の向上 (◎)

券売機を改修し、発売券種やクレジットカードによる決済手段を追加 (R 8～9年度 321,200 千円)

【地下鉄駅の券売機で購入が可能となる券種】

| | 現状 | 改修後 (<input type="checkbox"/> が充実部分) |
|--------|------------------|---|
| 購入可能券種 | 地下鉄単独 (通勤/継続) | 地下鉄単独 (通勤/ <input type="checkbox"/> 新規・継続) |
| | 地下鉄-民鉄連絡 (通勤/継続) | 地下鉄-民鉄連絡 (通勤/ <input type="checkbox"/> 新規・継続) |
| | | <input type="checkbox"/> 市バス単独 (通勤/新規・継続) |
| | | <input type="checkbox"/> 市バス-地下鉄連絡 (通勤/新規・継続) |
| 決済手段 | 現金のみ | 現金・ <input type="checkbox"/> クレジットカード |

(2) 運賃制度の更なるシームレス化 (◎)

「meetus 山科-醍醐」や「洛西“SAIKO”プロジェクト」の推進と連携した取組の一環として、IC定期券の共通利用化等、同地域を運行する民間バス事業者との運賃制度のシームレス化を実施 (令和9年春予定)

(3) デジタル乗車券・クレジットカードによるタッチ決済の導入推進※再掲
スマートフォンで企画乗車券の利用が可能となるデジタル乗車券・クレジットカードによるタッチ決済の導入 (R 7～9年度 1,755,582 千円)